



事業活動の環境負荷低減

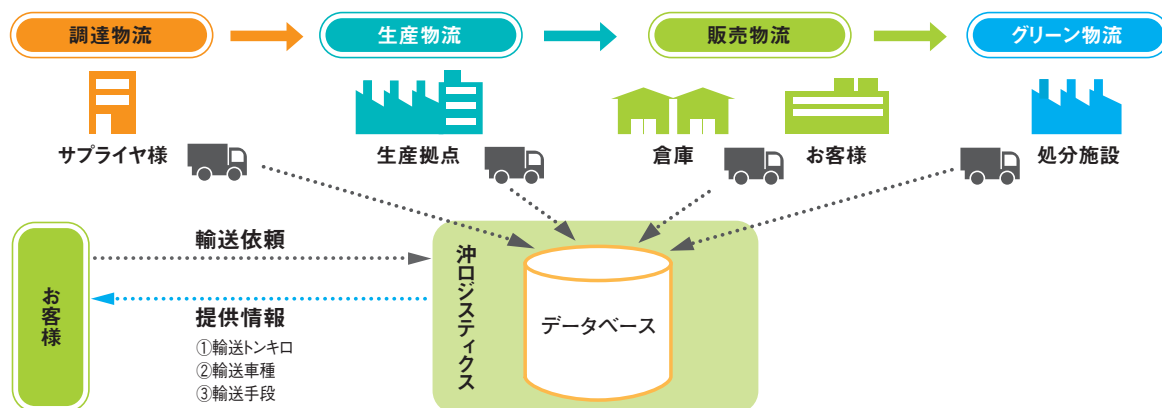
物流の環境負荷低減

運搬

京都議定書の目標達成のため、物流分野においても省エネ法が改正され、新たに荷主企業もエネルギー使用量の把握と合理化に取り組むこととなり、2006年4月から施行されました。OKIも荷主企業として(株)沖ロジスティクスと共に取り組みを開始し、OKIグループ内へ活動の展開を図っています。

エネルギー使用量把握の集計範囲は販売物流、調達・生産物流、廃棄物物流などで、集計方法はトンキロ法により実施しています。集計結果から算定したCO₂排出量は2005年度は3,756t、2006年度は3,944tとなりました。今後さらにエネルギー使用量の低減に取り組んでいきます。

●沖ロジスティクス物流



モーダルシフトによるCO₂排出量削減

CO₂削減を目的に、早くからトラック輸送を環境負荷の少ない鉄道輸送に切り替えるモーダルシフトの導入を推進してきました。

CO₂削減効果(年間)

シフト前: 418.7トンキロ-CO₂/年

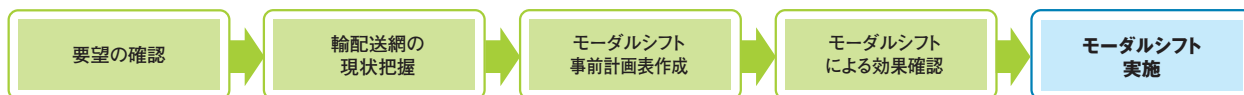
シフト後: 64.5トンキロ-CO₂/年 (84.6%減)

また、モーダルシフト導入による相乗効果として輸送コストの削減、物流所用時間の平準化および安全性の確保があります。

●モーダルシフト各拠点への取組み

拠点	開始時期	トラック輸送			JR5Tコンテナ輸送		
		発地	着地	距離(km)	起点	終点	距離(km)
北海道(札幌)	1995年	伊勢崎	札幌	1,081	倉賀野	札幌	1,085
東北(仙台)	2003年	伊勢崎	仙台	378	熊谷	仙台	378
中国(広島)	1995年	伊勢崎	広島	915	倉賀野	広島	887
四国(高松)	1995年	伊勢崎	高松	719	倉賀野	高松	703
九州(福岡)	1995年	伊勢崎	福岡	1,199	倉賀野	福岡	1,178

●モーダルシフト推進の流れ



梱包

OKIグループは梱包材資源の消費や梱包材廃棄物の排出低減、RoHS指令対象6物質の非含有に取り組んでいます。2006年度は生産量の増加に伴い梱包材料購入量が若干増加しました。

